

## 日本脊椎脊髄病学会 平成 26 年度第 1 回国際委員会議事録

平成 26 年 4 月 17 日（木）7 時～8 時

国立京都国際会館 5F 554-B 号室

出席：湯川泰紹委員長、松山幸弘担当理事、金山雅弘委員、川原範夫委員、小西宏昭委員、田中雅人委員、根尾昌志委員、矢吹省司委員、岩崎幹季アドバイザー、鈴木秀典アドバイザー（寒竹司先生の代理、山口大学）

欠席：豊根知明委員、長谷川和宏委員、富士武史アドバイザー

### 1. English Poster Session (EPS) および English Poster Award (EPA) の存続について

EPS および EPA の当初の目的の一つでもあった「海外とくにアジアからの参加者の獲得」について、その効果を検証する必要があるのではないかとの意見が出された。平成 25 年度第 4 回本委員会で議論された「今後の英語セッションの扱い」については理事会より明確な方針は示されていないが、招聘医師や海外からの参加者の発表機会を確保すべきとの意見が多数を占め、当面は EPS・EPA とも存続すべきであるとの意見統一がなされた。また、これまで English Poster の演題募集は一般演題と別々に行ってきたが、次回学術集会より、English Poster の演題募集を一般演題と統一していただくとき、English Poster の査読・採用は一般演題の査読・採用プロセスに組み入れていただくよう学会本部(山口大学)に依頼することとなった。

### 2. トラベリングフェローの選考基準

従来は業績（発表・論文）のみで選考してきたが、次回以降は過去 5 年間の脊椎手術執刀数・JSSR での発表回数・自己アピールポイント作文（400 字以内）を選考基準に加えることとなった。

### 3. トラベリングフェロー訪問先の拡大について

以前より懸案となっていた「トラベリングフェローの訪問先をアジアのみでなく欧米にも広げるかどうか」（平成 24 年度第 3 回議事録、平成 25 年度第 4 回議事録参照）について再度話し合われた。訪問先となる施設・指導医と信頼関係の構築が必要であり、欧米へ拡大する前に、アジアパシフィック（オーストラリア、カナダなど）から広げていく方針となった。フェローへの支援額はオーストラリア・カナダを希望する者も従来のアジアと同額とする。訪問先となる施設・指導医との信頼関係の構築のため、オーストラリアおよびカナダの学会長を学術集会に招聘していただくよう、学会本部に働きかけていく方向となった

### 4. トラベリングフェローのアワード冠名について

予算の学会本体への移行後も、協賛企業名をトラベリングフェローのアワード冠名に残すこととなった(暫定処置)。

5. 英語セッションなど学会の国際化について

英語セッションやスライドの英語表記など学会の国際化について、松山担当理事より理事会で再度提案し、理事会の方針に沿って委員会として検討することとなった(平成24年度第3回および平成25年度第4回本委員会での審議内容の再確認)。

6. トラベリングフェローの相互受け入れについて

Dr. Huang Tsung-Jen 台湾脊椎外科学会会長より、日本でも台湾のトラベリングフェローを受け入れてほしいとの要請があった。平成27年度より年間2名程度の受け入れを前向きに検討し、理事会での承認後に具体的に準備する運びとなった。

7. 平成26年度のアジアトラベリングフェロー12名が紹介され、それぞれ抱負を述べた。